

式 辞

残雪の残る山々にも春を感じさせる風が吹き始めた今日の良き日に、上田良介兵庫県議会議員様をはじめとしますご来賓の皆様のご臨席、卒業生の保護者の皆様のご列席のもと、平成二十九年度兵庫県立村岡高等学校卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました第五十六期生五十七名の皆さん。ご卒業おめでとうございます。職員一同、心よりお祝い申し上げます。

そして保護者の皆様、本日お子様にご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠にありがとうございます。本校入学以来三年間、嬉しかったこと、心配なことなど生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその三年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたことこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、今、卒業生の皆さんはこの場で高校生活を振り返ったとき何を思い出すでしょうか。クラス一丸となって盛り上げた村高祭、縦割り授業の中、全校生で頑張った総合的な学習の時間におけるそれぞれの地域学習での経験、部員同士で切磋琢磨して目標達成目指して頑張った部活動、進路実現に向け取り組んだ面接練習、苦しかったけど頑張った年2回のマラソン大会、村岡で行われる全国規模のマラソン大会でのボランティア活動などどれをとっても忘れることのできない尊い経験であったと思います。それぞれの場面で一生懸命頑張る姿に、初めて但馬の地で勤務する私はどれだけ励まされたかわかりません。校長面談では、丁度、就職試験や大学推薦入学試験、専門学校選考試験のまっただ中であつたため、揺れる心や不安な思いをあるいは卒業後の目標などを話してくれました。朝挨拶を交わすときの姿から違った一面も見せてくれて、皆さんの純粋な気持ちや保護者の方だけでなく地域の皆様との関わりの中で成長してきた様子が伺え、本校生の素直さと誠実さに感動を覚えました。たった一年という短い間でしたが、皆さんからいただいた元気、勇気を忘れることはないでしょう。

そこで、今日、本校を卒業される皆さんがこれから社会に出て生きていく上で心にとめておいて欲しいこととして次の言葉を贈りたいと思います。

一つ目は、パナソニック創業者の松下幸之助さんが言われた、「自分の仕事は自分の仕事だと思ふのはトンデモのないことで本当は世の中にやらせてもらっている仕事なのである」という言葉です。まさしく「何事もさせていてくれるという気持ちで取り組む」ということです。世の中が必要とするから仕事があるので、必要とされなければ仕事はないのです。今ロボットが人間に変わって仕事を始めており、改めて人の仕事というものが見直されてきています。人として必要とされる仕事をするためには、ロボットにはできない、人間でしかできない、心を通わせて仕事をするのが大事だと思います。相手を思いやり、打算でなく、人として感謝の気持ちを忘れることなく、

謙虚に、誠実に熱心に仕事をするということがますます大切になってくるでしょう。松下幸之助さんは自ら開発を進める上で、そのような人と人のつながりを考えておられたのだと思います。そのことが今のパナソニック発展の基礎となっていることは言うまでもありません。

二つ目は、第二次世界大戦で敗戦を迎えた日本が再出発を図るとき、GHQ との交渉を進めてきた白洲次郎という方が仰った「プリンシプルを持って生きていれば人生に迷うことはない」という言葉です。これは、周りに左右されず、自らの信念を持ち、その原理原則に従って行動すれば、ぶれることはないから後悔することはないということです。GHQ との交渉も敗戦国だからといって全てを受け入れるのではなく、将来の日本をイメージした原理原則に基づき交渉をされたそうです。今の日本の発展は、ここでの交渉から生まれたものだとも言えますが、軸をぶらさずにしっかりと生きていくことは、大人の仲間入りをし、社会に飛び立つ皆さんにとってはとても大事なことになってきます。回りに惑わされずしっかりと自分を築いていけるように、そして将来に描いた自分の姿に近づいていけるよう精一杯生き抜いて欲しいと思います。

そして三つ目は、「少水常流如穿石」(しょうすいつねにながれていしをうがつがごとし)という禅の言葉です。これは、ほんのわずかな水でも絶え間なく流れているとやがては固い石にさえ穴を開けてしまうという意味で、諦めずに一步一步進み続けることで願いは叶うということです。さらにそこから発展し、歩みはゆっくりとしたものかもわかりませんが、毎日毎日コツコツと続けていくことで、少しの変化や自分の成長を感じ取ることができようになることも意味すると言われてます。己を知り、己のやってきたことを信じることで持てる力を発揮できるようになります。諦めないでとにかく自分の決めたことを続けることで目標を達成して欲しいと思っています。

この「感謝」「ぶれない」「諦めない」という三つの言葉は、それぞれが別々の言葉ではなく、その思いをもって生活をしていけば、つながっていることは実感できるようになってくると思います。皆さんは「人みな使命あり」という教育指針、そして「英知、自律、友愛」と言う校訓のもと学校生活を送ってきました。それぞれの場面でそういったことを感じて、その場にふさわしい行動してくれました。「感謝」「ぶれない」「諦めない」という三つの言葉を胸に秘め、今までの経験から感じたことを活かし、自ら思い描いた将来に向かって進んでいってください。

それでは、いよいよ村岡高校を飛び立つときが来ました。皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げます。

平成三十年三月三日
兵庫県立村岡高等学校
校長 若浦直樹